令和6年度 加藤学園高等学校 自己評価表(結果)

加藤学園高等学校長

加藤瑠美子

加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

尾崎 庸夫

学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。
教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

今年度の重点目標

ア 生徒一人ひとりを大切にし、豊かな心を育てる
 イ 保護者・生徒が安心・満足できる学校づくり
 ウ 生徒の希望に沿った進路指導
 エ 基本的生活習慣の徹底
 オ 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す
 カ 国際理解教育の推進

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行と瞑想の徹底 清掃指導の充実 ボランティア活動の実施 教室内外の環境整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、入学後に挨拶や集団行動についての指導を実施している。しかし、2年・3年となると挨拶ができなくなってしまう生徒がいるため、日々の生活の中で指導していくことが大切となる。 毎週金曜日に大掃除を実施しているが、清掃活動の徹底をしていく必要性を感じている。 ボランティア活動の実施については、日程調整等が上手くいかなかったため実施できなかった。来年度は、1・2年生を中心に日程を調整し確実に実施できるようにする。 徳育の指導については、83.6%の保護者が共感してくださっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 来校時、生徒達の挨拶は気持ちが良い。 学校へ来ることが多い1年であったが、多くの生徒が挨拶をしてくれた。 ボランティア活動に励んでいる生徒もいる。 新任の先生方へ、この理念をしっかりと継承されることを願う。100年の伝統を守る。 挨拶は初めの言葉である。徳育教育は加藤学園の誇りである。
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの能力を引き出す授業を展開する 教科の研鑽に努める 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導に関しては、アンケート結果から各教員が教材研究等、積極的に取り組んでいるといえる。 数学科は東部地区の研修会を本校で実施し、他校の先生方との意見交換を実施した。 生徒の授業満足度アンケート結果より、7割の生徒が7点以上(10点満点)の点数をつけていることから、生徒の授業満足度は高いといえる。しかし、保護者アンケートの「魅力ある授業」については14.8%が「わからない」と回答しているので、授業の様子を保護者へ配信するようなことを検討していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒はiPad等を上手く活用している。 授業研究などよくされていると思う。 生徒の主体性、意見交換等、楽しみながら授業改善をしてほしい。 先生によって取り組みが様々である。子供たちが楽しいと感じている授業もあれば、そうでない授業もあることが少し残念である。
		個に応じたきめ細かな指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> 適切な副教材を積極的に活用し、基礎学力を定着させる 英検・漢検・情報処理検定等の資格取得にチャレンジする 	B	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験と連動した副教材を積極的に活用し、基礎学力の定着を目指した。活用に関しては、個人差があるため結果にも影響している。 積極的に英検に取り組み、合格実績を高めている。(全コース) 新しいコースのチャレンジを積極的に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ○進学コースアジアカルチャーの生徒(2・3年生)の合格者数 HSK中国語検定 2級20名中17名 1級25名中21名 ハンガル検定 5級18名中8名 ○総合コースライフデザイン専攻の生徒(2・3年生)の合格者数 手話検定 5級18名中18名 食物調理技術検定 3級11名中6名 4級19名中19名 保育技術検定 3級11名中11名 4級11名中11名 	B	<ul style="list-style-type: none"> 検定にチャレンジする生徒への指導がよくなされていたと感じる。 大いに期待する。成長が楽しみである。 チャレンジの機会を確保する、その努力はありがたいこと。
教資職員向上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を実施する 研究授業を実施する 職員研修を実施する 私学人として誇りをもち、生徒の見本となる節度ある言動・服装を常に意識する 	B	<ul style="list-style-type: none"> 在校生の保護者対象の授業参観を4月に実施した。 中学生とその保護者対象の公開授業を6月と11月の2回実施した。申込制であるが、多くの方に来校していただくことができた。 研究授業は、各教科で実施している。 職員研修会は4月と8月の2回実施した。また、8月に新任教員研修会を実施した。 新任教員を対象に、受験指導(面接・小論文)の方法等を勉強する会を開催した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールが志望動機になるため、さらなる工夫を期待する。 学校推薦や総合型の入試が増える中で、教員の教科指導力だけでなく、小論文や面接等の指導力をさらに磨いてほしい。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・始業前、放課後の補習と個別指導の実施 ・長期休暇中の補習の実施 ・各種検定、資格取得に積極的に取り組む ・進路実績アップのために、各コース・学年と連携し、学年段階に応じた組織的、計画的な進路指導を推進する ・旧帝国大学・ブロック大学・静岡県内の国公立大学を含む国公立大学30名以上の合格と早慶上理、GMARCH、関関同立以上の私立大学に40名以上の合格を目指す ・校内進学相談会を効果的に運用する ・長期休暇中の教員の外部講習への参加 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内進学相談会は51大学、12専門学校にて実施した。主に3年生を対象としているが、一部の1、2年生も参加し、生徒の進学への意識の変化や若い教員にとっても大学、各種学校を知る良い機会となった。 ・多くの大学で総合型や学校推薦型選抜を実施し、年内に合格する生徒がほとんどで、不合格になる生徒はある程度のランク以上の大学のみである。今後、益々中堅以下の大学は受かりやすい傾向であるが、力をつけて上の大学を目指す指導が必要である。 ・共通テストについては、66名の生徒が一般選抜を目指して受験した。難関大学への志願者が増加し、最後まで第一志望を諦めずに受験する生徒が多かった。iPad等も利用しながら、生徒への個別指導が直前まで行われた。 ・国公立大学(省庁管轄の学校を含む)の合格 30名(3/10現在) 九州(1)・横浜国立(1)・千葉(1)・東京外国語(1)・埼玉(1)・茨城(1)・富山(1)・信州(1)・山梨(3)・静岡(2)・岐阜(1)・大阪教育(1)・北見工業(2)・室蘭工業(1)・静岡県立(5)・静岡文化芸術(1)・川崎市立看護(2)・都留文科(1)・釧路公立(1)・防衛大学校(1)・国立看護大学校(1) ・難関・準難関私立大学の合格 62名 早稲田(1)・明治(3)・青山学院(1)・立教(3)・法政(6)・関西学院(2)・立命館(5)・成城(2)・成蹊(4)・明治学院(5)・國學院(15)・武蔵(1)・芝浦工業(3)・北里(2)・順天堂(4)・日本女子(4)・津田塾(1) ・夏期休暇中にα特進・特進所属教員や若手教員を中心に駿台・代ゼミの教員向け研修に参加した(駿台7名、代ゼミ6名)。オンラインまたは対面型の研修であったが時間をやりくりしながら受講し受験指導に活かした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学への合格が多く、指導が活かされている。 ・一般入試を受験する生徒たちがもっと勉強できる場が必要である。 ・生涯学習として大学選びをしている生徒が多いと思われる。 ・生徒一人ひとりを満足させる進路指導計画とその結果が素晴らしい。 ・1・2・3年と積み上げることが大切なこと。そのことが生徒の志の高さにつながる。 ・夏期休暇中の教員研修について、受験指導に活かしたとあるが、具体的な効果を知りたい。
	生徒の人間力と加藤学園プライドの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の育成 ・礼儀・マナー・モラルの育成 ・基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則、特別指導、自転車マナー指導など、生徒が本校の校風を理解し、規律正しい生活を送るための、規範意識の育成 ・挨拶や言葉遣い、公共の場でのマナーやモラルなど、「人間力」の育成。特にマスク着用で不十分になっている挨拶の徹底に力を入れる ・コロナ禍で崩れ気味の生活習慣(遅刻など)を正していく 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は昨年とほぼ変わらない件数であったが、金品の盗難や自転車の盗難等、人の物を黙って持ってってしまう事案が数件あった。再度心の教育に重きを置いて指導していく必要がある。 ・SNSへの不適切投稿やそこから派生される人間関係のトラブルがあった。SNSの使い方を含め、情報化社会の中で生活していく危険性を再認識させる必要がある。 ・マスク生活の名残であるか、挨拶ができなかったり挨拶の声が出せなかったりする問題がある。本校は、挨拶ができる校風が伝統であるため、それを取り戻す工夫を考えたい。 ・外部の大人とトラブルになる事案があった。危険人物もいるため警察との連携が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等で人を傷付けることは、社会的リスクもあるので徹底した指導をしてほしい。 ・人間力の育成は十分に結果が出ている。特に運動部の生徒は礼儀正しい。 ・SNS等、指導のご苦勞を感じる。 ・教員と保護者との連携が大切である。 ・SNS関連は、難問である。教員と生徒の合同対策委員会などで具体的な取り組みを検討していただきたい。
保護者や地域住民から信頼される安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止教育 ・防犯教育 ・情報リテラシー教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会(毎月)での情報共有といじめや嫌がらせの未然防止、早期発見に努める ・金品や自転車の盗難が発生しにくい環境整備と、生徒の自己防衛意識の向上 ・SNSへの不適切画像の投稿や、他人への誹謗中傷、iPadの使い方など、ルールに基づいた適切な使用方法を理解させる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の高いアンテナと情報共有により、生徒間のトラブルにも早期発見、対応ができた。教室に入れない生徒に対しては心の相談室との連携を密にし、サポートルームを活用しながら教室へ戻れるよう指導ができた。生徒のわずかな変化、シグナルを見逃さずに全教職員で協力していく。 ・金品の盗難や自転車の盗難がわずかであるが発生した。その都度調査あるいは訓話を設け、貴重品管理対策も行ってきた。継続的な管理体制が必須である。 ・SNSを介しての問題行動の発覚は相変わらず多い。情報リテラシー教育に合わせ、ネット依存の問題も課題とし、全教職員で取り組んでいきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・見えない部分で起こることも多い。未然に防ぐための策(心の教育やSNSの扱い方)を立ててほしい。 ・納得感をもてるかが重要だと思う。 	

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実に努める	<ul style="list-style-type: none"> 短期留学の実施 コロナ禍における校内英語研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 東京グローバルゲートウェイ研修の実施(6月・PⅡ) イギリス短期留学の実施(7～8月13日間)参加数6名 校内英語研修(EnglishDays)の実施(9月2日間・αSⅠⅡ) 到達度別のグループを編成しAll Englishの2日間を過ごす。 オンライン英会話の実施(PⅡⅢ) 杏林大学外国語学部の出前講座の実施(3月・PⅡ1) セブ島語学研修の実施(3月14日間)参加数7名 英語に触れる機会を増やし、英検合格者数の増加を目指し、英語科と協力し合った。 横浜中華街体験&散策の実施(11月)(PⅢアジアカルチャー) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実施してほしい。 様々な取り組みは有難い。
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自立性、規律性、人間性、社会性の向上に努める 心身の鍛錬に励み、相互の信頼関係を構築する 校友会活動に積極的に参加するように促す 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動の競技能力や技術を高めるだけでなく、日常生活における挨拶の徹底や校則の遵守など、人間性や社会性を高めるための指導を実施した。 運動部・文化部ともに熱心に活動し以下のような成果を出した。 各部活動の実績 ○柔道部 <ul style="list-style-type: none"> インターハイ 男子個人4名出場 第3位 インターハイ 女子個人1名出場 ベスト16 インターハイ 男子団体6名出場 ベスト16 全日本ジュニア柔道体重別選手権 男子個人2名出場 第3位 全国高校柔道選手権 男子個人1名出場 ○バドミントン部 <ul style="list-style-type: none"> インターハイ 男子W2名出場 ベスト16 インターハイ 女子W2名出場 インターハイ 男子団体7名出場 インターハイ 女子団体7名出場 インターハイ 男子S1名出場 ベスト32 インターハイ 女子S1名出場 全日本ジュニア 男子S1名出場 全国選抜バドミントン 男子S1名出場 ○チアリーダー部 <ul style="list-style-type: none"> 全国高校ダンスドリル選手権大会2024SONG/POM部門 Medium編成部門14名出場 USA nationals 2025全国大会song/pom部門 Medium/Large10名出場 ○囲碁・将棋部 <ul style="list-style-type: none"> 全国高文祭囲碁 女子個人1名出場 全国高文祭囲碁 県団体のメンバーとして1名出場 全国高校囲碁選手権大会 男子団体3名出場 全国高校囲碁選抜 男子団体3名出場 保護者アンケートを見ると、部活動の充実について16.6%の保護者が「わからない」と回答しているため、活動内容を保護者へ伝える方法を検討していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道で先生方の指導の成果だと感じる。 運動部の生徒は、自分の特技を生かして頑張っている。文化部の生徒も運動部の生徒に負けないくらい頑張っている。 素晴らしい結果である。 様々な部門での活躍は素晴らしい。 KG TIMESが着実に保護者のもとに届くと良い。実際に届いていない、見ていないという保護者がいるのかを確認するとよい。 KG TIMESがあることで部活動で頑張っている生徒のことは知ることができ有難い。 部活動を最後までやり遂げ、多くの成長を感じることができた。(強い精神力等)
学校安全	安全管理の充実	防災訓練の実施と安全管理の充実に努める	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の定期的実施 安全管理マニュアルの確認 防災避難用設備の改善 	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練(8月)・防災講座(6月・1年生)を実施し、生徒の防災に対する意識向上に努めている。 安全管理マニュアルを改訂し、緊急時の対応が迅速にできるよう地域住民との連絡会(10月)を実施した。 生徒に対して地域防災訓練(12月)への参加を促したが、定期テスト直前のため参加数は伸び悩んだ。 本校で行われた地域防災訓練(12月)に本校教員が参加し、地域住民との連携を確認した。 地震の頻度を鑑みて、備蓄品の補充を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 早めの対応で生徒たちの安全を守ることが大切である。 部活動を中止して地域の防災訓練に参加し協力してくれた。学校生活の中でも安全指導がなされている結果だと感じる。 防災キャンプの取り組みで生徒の主体性が生まれる。 大雨等の対応は、早くしてほしい。